穂高古墳群 本格的な調査へ

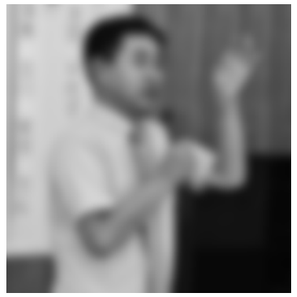
8/10　国学院大学が学術調査

国営アルプスあづみの公園内に残る古墳で、8月2日から10日にかけて、国学院大学考古学研究室による発掘調査が行われました。この古墳は穂高地域の山麓一帯に残る6～7世紀の史跡「穂高古墳群」のうちの1基。市内の古墳が大学の発掘調査の対象になることは珍しく、その成果に期待が寄せられています。今回の調査では、古墳内から石室の片側の石壁が確認されました。発掘を指揮する吉田恵二教授は、「来年の調査で石室の広さ・規模が分かってくる。現場説明会もできるのでは」と話しています。

もっと身近に 消防団

8/22　消防フェスティバル

安曇野市消防団（小出博一郎団長）は8月22日、豊科サティ東側駐車場で消防フェスティバルを開催しました。この日は1,000人が来場。煙が充満したテントの中を通る体験や消火体験、女性消防隊による紙芝居、音楽喇叭隊による演奏など、親しみやすく工夫された催しを楽しんでいました。幼稚園に通う子どもと訪れた松本重乃さん（豊科）は、「消防団の実際の活動を知る良い機会になった。日ごろの活動に感謝しています」と話してくれました。



地域と歩んだ 20年

8/21　第20回信州安曇野薪能

本年で20回目を迎える信州安曇野薪能（同実行委員会主催）が8月21日、龍門渕公園多目的広場の特設能舞台で開かれ、約1,000人の来場者が自然と一体となった幽玄の世界を堪能しました。
節目となる今回の公演では、おめでたい席で演じられる能「翁」を上演。名誉市民（故）青木祥二郎さんの長男・青木道喜さんの幻想的な舞が、夏の闇に浮かび上がりました。また、市内小学生14名による仕舞と連吟が披露されました。子どもたちは6月から道喜さんの指導を受け、この日の舞台を迎えました。

薪能は旧明科町で行われていた「水郷明科薪能」が前身。地元企業など、地域のバックアップを得ながら、日本の第一線で活躍する出演者が登場する舞台として、毎年多くのファンが訪れています。

また会おう　豊科図書館で

8/28　豊科図書館休館イベント

建設中の豊科交流学習センター内移転のため、9月1日から休館となった豊科図書館（山崎敦子館長）は8月28日、図書館事業にかかわってきた団体の会員ら70人が参加するなか、休館の記念イベントを開催しました。

イベントはまず、読書会など5団体がこれまでの活動を発表。この場所で積み上げてきた取り組みを振り返りました。その後、民話朗読やピアノコンサート、お話会による読み聞かせ、松本深志高校教諭の細川桓さんの講演などが行われ、それぞれ思い出が詰まった場所に別れを告げました。

東洋古典読書会代表の太田千代子さん（豊科高家）は、「自分たちが歩み始めた拠点がこの場所。まるで自分の部屋に行くように通った日々が思い出されます」と図書館での思い出をしのんでいました。

新図書館は2月11日に開館予定。1階の図書館は現在の約5倍の広さとなり、2階には、熊井啓記念館、学習室、多目的ホールなどができます。

安曇野のパワーを胸に スクラム

8/14　中央大学ラクビー部が市内で強化合宿

関東大学ラグビーリーグの強豪・中央大学ラグビー部が8月9日から15日までの7日間、堀金烏川の啼鳥山荘を拠点に強化合宿を行いました。8月14日には牧運動場で60人のメンバーが紅白戦を実施。監督の松田雄さんは、「山荘での共同生活がチームの素晴らしい経験になっている。安曇野でもらったパワーを胸に、秋シーズンでは結果を残したい」と強化に自信を見せました。市教育委員会の調べでは、市内で夏期合宿をしている県外の高校・大学の運動部は17団体。安曇野市は合宿地としても人気が高いことがうかがえます。

火消しの心　国境を越え

8/11　クラムザッハの消防ボランティアが訪問

市と姉妹都市提携を結ぶオーストリア・クラムザッハ町の訪問団が8月7日から11日までの5日間、市内に滞在しさまざまな分野で交流を深めました。8月11日には、ボランティアでクラムザッハの消防活動をしている3人が市庁舎を訪れました。本業はエンジニアのマイクスナー・ステファンさん（20）は、「人命を救うことができること、メンバーの友情が深まることが活動の良さ」と消防ボランティアの良さを語っていました。